

# 企業ニュース 三洋化成工業

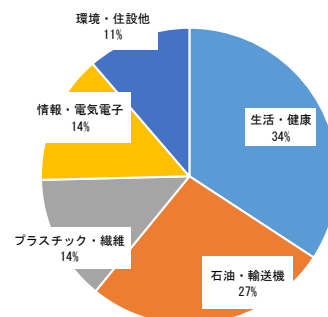
(東証1部：4471) <https://www.sanyo-chemical.co.jp>

作成者：兵藤三郎

## 中堅のスペシャリティ化学メーカー

1949年、三洋油脂工業として創業。1963年に現社名に変更した。高機能・高性能な化学品を様々な業種に供給する、中堅スペシャリティ化学メーカー。主要製品の一つに高吸水性樹脂（SAP）がある。SAPは自重の数百～1,000倍の水を吸収し、多少の圧力をかけても吸った水を離さない特性を持ち、紙おむつなどに使われる。原料のアクリル酸（AA）は他社より購入しているが、本年5月AAメーカー日触媒（4114）との経営統合計画が発表された。両社合算のSAP生産能力は110万トン強、規模拡大による競争力・収益力の強化が期待できよう。統合効果としてはその他、ポートフォリオの多角化、新規事業開発の加速などが挙げられよう。三洋化成では2021年量産化に向け、主要部材を金属から樹脂に置き換え、安全性に優れた、全樹脂電池（新型リチウムイオン電池）を開発中。

◇19.3期売上高構成比



(出所) 三洋化成工業資料より  
CAM作成

## 生活・環境に改善の兆し、原材料コスト下落もアップサイド要因

20.3期・第1四半期（4-6月）の連結業績は売上高が393億円、前年同期比5%減、営業利益が29億円、同19%減。SAPなどの販売減少に伴う生活・健康産業関連事業の減収などが影響し減収減益の決算。明確なコメントなどはないが、会社計画も下回ったものと推察される。四半期ベースでは19.3期一貫して下落傾向にあった生活・健康産業関連は、前第4四半期（1-3月）比、増収増益（黒字回復）と回復の兆しを見せた模様。

20.3期の会社計画は売上高が1,700億円、前期比5%増、営業利益が145億円、同12%増。第1四半期は厳しい経営環境であったが、期初計画は据え置かれた。前提の為替レートは110円/ドル、国産ナフサ価格は48千円/KLで、足元の市況は業績面からはアップサイドだが、先行きの不透明感などを懸念した保守的なスタンスを取っている。中期的には、日触媒との経営統合に伴うシナジー効果も期待できよう。

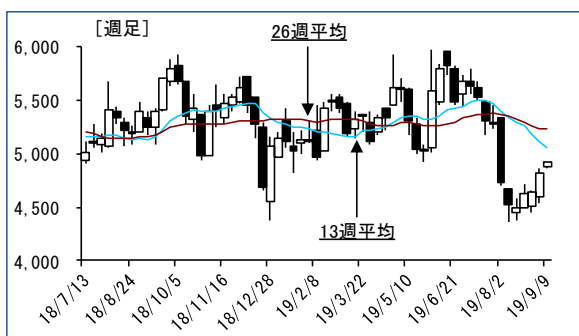
### [株価動向・投資判断]

業績回復の期待が高く、足元のPERも10倍台と割安感があり、中期の投資スタンスで臨みたい銘柄であろう。日触媒との経営統合にも注目したい。

<4471 三洋化 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.3	161,692 (▲8)	11,999 (▲12)	13,866 (▲10)	9,272 (▲9)	420.6	110.00
19.3	161,599 (▲0)	12,919 (▲8)	15,205 (▲10)	5,345 (▲42)	242.5	125.00
20.3 予	170,000 (▲5)	14,500 (▲12)	16,000 (▲5)	10,500 (▲96)	476.3	140.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)

株価(2019/9/9)	4,915 円
年初来高値(高値日)	5,970 円(19/5/30)
同安値(安値日)	4,355 円(19/8/6)
予想PER(20.3予)	10.3 倍
1株株主資本(PBR算出用)	5,857.5 円
PBR	0.84 倍
予想配当利回り	2.85 %
(1株当たり配当金年140.00円)	
ROE(19.3)	4.1 %
発行済み株式数	2,353 万株